

**DSIA が Give2Asia の協力を得て
(財)釜石・大槌地域産業育成センターにキッチンカー2台を寄贈**
釜石市、大槌町のレストラン事業者などの復興を支援

一般社団法人DSIA(東京千代田区、代表理事:鈴木隆敏)は、このたび米国の財団法人Give2Asia(米 国カリフォルニア州、代表:Ta-lin Hsu)の資金協力を受け、財団法人釜石・大槌地域産業育成センター(岩手県釜石市、理事長:野田武則釜石市長、以下「産業育成センター」)が被災地の産業復興を目的に 進めている「かまいしキッチンカープロジェクト」に対し、キッチンカー2台を寄贈しました。

「かまいしキッチンカープロジェクト」は、産業育成センターが、津波で店舗を失った飲食店の再建や、新規開店を目指す人々に対し、調理や販売が可能な車両(キッチンカー)を低料金を貸出し、産業の復興や雇用の創出を後押しすると同時に、飲食店がほとんどない地域にある仮設住宅の避難住民に飲食の機会を提供することを目的として、2011年8月にスタートしたものです。プロジェクトでは、当初から最終的に10台のキッチンカーの確保を目指してきましたが、特殊車両の購入や特別な改造に大きな資金が求められることから、これまで限られた台数での運営を強いられてきました。今回、DSIAを通じたGive2Asiaからの資金によって新たに2台のキッチンカーが寄贈されることで、計9台の体制となり、ほぼ当初の目標に沿った支援の運営が可能になってきました。

これまでに、9事業者がこのプロジェクトのキッチンカーを活用し、事業復活の足掛かりを得てきただけでなく、地域経済にも貢献をもたらしてきました。産業育成センターでは、今回寄贈を受けた2台によって、2012年度内に4名の追加雇用を生み、被災地域で15,000人以上の顧客増加が見込めるとしています。また、車両改造や整備を通じて、地域の自動車関連業者にも事業機会を提供できることが期待されています。



このプロジェクトマネジャーである産業育成センターの石川学さんは、「キッチンカーは、飲食に関わる中小の事業者にも、最小限のコストで事業再開に着手する機会を提供することができる。店舗の再開は、各事業者が仕事面でメリットを得るだけでなく、地域全体の産業の活性化や復興への希望をもたらしてくれることから、地域の皆さんにも大変喜ばれている。今回、DSIAの協力によりGive2Asiaから資金提供を受けることができない、このプロジェクトの運営をさらに活発に進めていくことができる。今後は運営体制や事業への助言機能を強化し、より多くの事業者の支援を行いながら、釜石市や大槌町を中心とした被災地復興の一端を担っていきたいと思っている」と、話しています。

今回寄贈した2台のキッチンカーは、すでに9月1日から、津波で店舗を失った居酒屋が再起をかけたステーキ丼の店舗として、また、地元農業の復活を祈って立ち上がった地元農業家による地域農産物の販売店として、それぞれ活用が始まっています。

DSIAは、震災後から「復興への架け橋プロジェクト」として、数件の被災地支援プロジェクトに参加してきました。Give2Asia からキッチンカープロジェクトへの支援として委託された金額は1,535万円で、DSIAにとって最大規模の被災地支援プロジェクトとなります。

本件に関するお問合せ: 一般社団法人DSIA (info@dsia.sakura.ne.jp)

一般社団法人 DSIA について

日本を再発見するソーシャルビジネスイノベーションの創造と普及に関する事業を行い、経済発展、人材育成および地域活性化に寄与することを目的として、調査研究やセミナーなどの事業を行う。東日本大震災後は、様々なバックグラウンドや専門性を持つメンバーおよび協力を募って「復興への架け橋プロジェクト」を発足し、陸前高田市の商店街マップの制作や子育て支援団体「きらりんきっず」、南三陸町伊里前商店会仮設商店街開設などの支援活動に参加している。